# 小体研
Physical education

2020年（令和2年）
11月20日（金）
◇第4号◇
八重山地区小学校体育研究会
広報誌


八重山地区小学校体育研究会の発足にあたり、尽力された諸先生方のこれまでの活動等をアーカイブとして残していくために、文章を寄せて頂きました。吉濱剛先生による２回目の寄稿です。

小体研寄稿②（全４回）

## 私と体育授業


八重山地区小学校体育研究会
相談役　吉濱　剛


1983 年西表小学校に赴任した当時、竹富町でも毎月教科別研究会があり、西表地区の小中学校教師が集って各教科で研修を行っていました。各教科の人数が少ないこともあったと思いますが、小中合同研究は、交流や情報交換のためにも有効でした。

体育については、研究会がなかったので、お互いに呼び掛けて小学校３名、中学校２名で発足させました。各学校を訪問して全員研究授業を実施してお互いの力量を高めていきました。特に、雨合羽をかぶり荒波を乗り越えて鳩間小学校での研究授業は印象的で体育研究仲間は「楽しい体育理論」を核とした充実した実践研究を進めました。

私は、跳び箱運動で研究授業を行いましたが、体育に関する情報が少なく、書籍や月刊誌等と児童の実態をイメージして、めあてに沿った場づくりやめあて学習を行い、手書きの実践記録でしたが他の研究仲間の実践と共に研究実践をまとめて石垣市で行われた研究大会に初参加して実践交流を図りました。

その後、石垣市立登野城小学校に転勤して八重山地区小体研活動に参加し、県学体研八重山大会においても跳び箱運動で公開授業を行いました。また、教育センター長期研修員として「楽しさの深まる体育学習」をテーマに技の深まりや授業への関わりをワークシートに記入し数値化して、楽しさの深まりの変化を捉えさせました。学習の経過や結果を主体者である学習者に返し、次の授業への課題発見やモチベーションの向上につなげました。そのことは、現在の学習評価研究に繋がるのかもしれません。

西表小学校での跳び箱運動の実践がきっかけで継続して実践研究を進める中、県内小学校に体育学習普及のため、沖縄県版「小学校体育指導資料集」作成編集委員として数回に渡り県教育庁の会議に参加し、種目別で跳び箱運動を執筆し、更に研究を深めさせていただきました。

同時期に漢那憲吉氏、黒島一哉氏と私の３名が３年間地区教育課程研究員に委嘱され、１年目「跳び箱運動」、２年目「ソフトボール」、３年目「陸上運動」で実践研究を進めました。

同時に、県体育指導者講習会に派遣や自主参加して多くの実践を学びました。今では当たり前の跳び箱を乗せる台車を講習会で初めて見て「子どもたちのめあてに対応した場づくりにはこれが絶対必要だ」と、現場に戻り直ぐに自作の台車を作成し紹介しました。また、ソフトボールの授業では、硬い球で行っていましたが、講習会で「ノーバンクボール」が紹介され、「これだ。これなら女子も一緒にやれる。」と買い求め、メンバーに紹介し普及に努めました。

また、めあて学習では、個別のめあてで学習を進めるのでワークシートがどうしても必要でした。当時は、体育授業でワークシートを作って学習することはほとんどありませんでしたので、始めた頃は試行錯誤で、ワークシートと筆箱、下敷きを持参させたりしましたが、風で飛んでいったりなど･･･。最終的には、グループ毎にスーパーの買い物籠を各グループに配り、個別にフラットファイルに教科書とワークシートを閉じ、綴りひもに鉛筆とフラットファイルをくくり付け一体型にすることで機能的になりました。教科書には、めあて活動の例や形態図など学習の進め方等が示されていて、ファイルに綴ることで子どもたちは教科書も参考にするようになりました。